

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年2月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770500415
法人名	医療法人社団 素耕会 (イヨウホクジツヤクシ ヲウカイ)
事業所名	富士グループホームほほえみ
所在地	香川県観音寺市観音寺町甲2899-3 (電話) 0875-57-5775

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年12月9日	評価決定日	平成22年2月3日

## 【情報提供票より】(21年11月2日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月12日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算	9.3人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2階建ての 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	15,000円+実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250円	昼食 350円
	夕食	400円	おやつ 100円
	または1日当たり		1,100円

### (4) 利用者の概要( 11月 2日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.5歳	最低	79歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	富士クリニック・小野歯科医院・永康病院
---------	---------------------

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の散歩、レクリエーション等、入居者の意見を取り入れ、皆が生き生きと、楽しく元気な生活を送ることが出来るように、スタッフ同士が各々考えてサービスを提供している。毎日の食事に関しても、スタッフがある食材で工夫し、献立にも変化があり、栄養的にも量的にも満足がいく食事が提供できている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業所は、利用者がこれまでの生活の中で行き来していた市街地に近く、近隣には商店や住宅が立ち並ぶ環境の中で運営されている。最近、管理者が交替したが、豊富な認知症ケアの経験を活かして職員と共に、地域とのつながりを大切にして利用者一人ひとりがその人らしく、地域の一員としての生活が継続できる支援を心がけている。設置母体の医療と介護の連携により、利用者・家族に安心と信頼を与え、地域との交流の広がりが実感できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠心」という理念のもと、具体的な方針を職員全員で考え、朝の申し送り時、出勤職員全員で唱和している。	職員は、利用者が「住み慣れた地域でその人らしい生活を提供すること」等を方針として共有しており、日々のケアにおいて地域との交流や趣味を活かした支援を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、ホーム内の行事に自治会の方の参加を呼びかけている。行事に参加してくれた方や近隣の方が、散歩時声かけてくれ、親しく会話できる事が多くなった。	自治会から講師依頼を受けたり、カラオケ大会や花見など事業所の行事に近隣の方の参加が増えるなど地域との交流が進み、日常的な声かけや挨拶が交わされるようになってきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会(老人会)にむけて、事業主医師に健康についての講演会を設けたり、行事の時に、医師に質問があれば、医師より説明してもらう事が出来る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回の運営推進会議を開催し、ホーム内外で行われた行事報告、行事予定報告、ホームの人員異動、入居者の入退所の説明等行なう。又、出席者から色々な面において意見をいただいている。	新しい出席者もあり、今後いろいろな立場の方への働きかけを考えている。介護保険制度や高齢者の人口等地域の高齢者の状況等が話題に上がるなど積極的な情報交換の場になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方に出席していただき、ホームで抱えている悩み、問題点など相談し、意見を聞いている。	市担当者とは身近に相談したり情報共有できる機関として、さらに積極的に情報提供などもしていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの解り易い所に、「身体拘束」マニュアルを掲示しており、身体拘束禁止の対象となる項目を具体的に解りやすく表示している。夜間、入り口の施錠については同意書ももらっている。	職員は、日々のケアにおいて「拘束」を感じさせることのない会話や行動等に心がけている。帰宅願望の強い利用者には散歩に付き合うなど、自由に行動できるよう目配り・気配りに心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のためのマニュアルをスタッフに配布し、虐待防止のための意識づけをしている。		

富士グループホームほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会では、まだ話した事がない入居者家族にも、ホームから情報提供した事はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所に関して、その都度利用者や家族の不安や疑問に対し、説明するようにはしている。他の医療機関への入院という形での退所になり、やむを得ないという実情になる事もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設けている。 必要ならば、施設関係者、院長など、関係者を交えてカンファレンスはしている。 家族来所時は、職員も交えて話す機会を作るようにしている。	日々の関わりや面会、行事等の機会に積極的に話しかけ、意見や要望を聞いている。 必要に応じて関係者で協議し、改善に取り組んでいる。	意見箱やアンケート方法等の工夫、広報誌を活用するなどにより家族からの意見や要望を把握し、運営に反映できるよう期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会、ミニカンファレンス時に皆からの意見を聞く機会を設けているが、実際不満や意見は言いにくいと思う。	管理者は、経験の浅い職員には積極的に声かけし、また、全体会・カンファレンスにおいてもチームの一員としての意見や提案が出しやすいよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境は毎年ごとに、少しではあるが、良くなっていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員の許す限り、研修会の参加機会をもつ努力はしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの管理者と色々な意見交換したり、わからない事を聞いたりしている。		

富士グループホームほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し、顔を覚えてもらったり、本人から話を聞いたり、ケアマネジャーが情報収集とともに対応してくれている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後、こまめに電話連絡を行い、家族が来所時には、職員がゆっくと話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでのサービス利用状況や家族の苦労などの経緯については、よく聞くようにしている。どのような対応を望むか、どのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意とするもの、経験を活かせる場面づくりを大切に、家事の中でできる事を一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、スタッフ、家族、本人の三者の関わりを大切に、一緒に会話を持つことで、家族、本人の訴え、要望を聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、入居後も馴染みの物の持ち込みや入居前の生活が送れるようにするための情報提供をお願いしている。住んでいた近所、または良く行っていた場所などを、外出、ドライブの中で訪れたりしている。	散歩やドライブなどを積極的に計画し、利用者の住み慣れた地域との関係を継続した支援を実践している。また、デイサービスとの交流も方法の一つとして活用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が上手くいくよう、声かけをしたり、環境を整えている。お互いが助け合い、協力しあえるような場面作りをしている。		

富士グループホームほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移った方へは、面会に行ったりしてフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声かけ、把握に努めている。家族等から情報を得た事も、スタッフ間で情報交換、共有している。	利用開始時に生活歴や趣味(絵画・書・カラオケ・農作業など)を情報収集している。また、日々のケアを通じて積み重ねた情報は職員間で共有し、一人ひとりの思いに添った支援に活かすよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの発言、家族、知人の面会時などに話を聞くことで、少しずつでも把握しようと努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、バイタルサイン、表情、行動、食事量や排便の有無、発言など、朝・夕2回の申し送り報告し、日々の状態状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。又、申し送りやカンファレンスで話し合っていることもケアプラン作成に活かしている。	定期的なモニタリング、介護計画に基づいて、具体的な支援計画は担当者が作成している。病状や状態等により適宜、家族・利用者・関係者で協議し見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを活用し、継続した情報の共有を全ての職員ができるようにしている。また、毎日、担当職員がモニタリングする事で、介護計画の目標を確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医を母体であるクリニックに変えたいという家族の要望により、緊急時にも院長の診察を受けることが出来ると、家族も安心して暮らせている。		

富士グループホームほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はそのような関係をもつ利用者さんもいたが、現在は把握しようと努力はしているが、なかなか見当たらない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望している、かかりつけ医となっている。受診や通院は家族にお願いしているが、必要ならば代行もしくは同行している。利用契約時に説明し、同意を得ている。	かかりつけ医に受診や通院する場合は必要に応じてケアマネジャーが代行或いは同行して、適切な医療が受けられるよう家族・利用者を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、正看護師が訪問してくれ、利用者の健康状態を管理してくれる。利用者の体調についての相談にもものつてくれたり、アドバイスしてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護情報提供を持参し、間でスタッフが見舞い、利用者を力づける。他病院関係者との関係は、ケアマネジャーが時々連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設は1ユニットで、夜間時スタッフ1人が9人の入居者の世話をしているため、力量に限界があり、入居時説明し、納得した上で入居してもらう。重度化した場合は、話し合いにより、納得した上での転居となる場合が多い。	現時点での事業所としての方針は、重度化や終末期の対応は困難であるとし、関係者の了解を得ている。しかし、家族から看取りを望む声も聞いており、検討課題との認識はある。	利用者の重度化や終末期においても、利用者・家族の声に耳を傾けながら、利用者が安心して生活できるような支援体制作りが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは回覧しているが、実践的訓練を定期的に行ってはいない。 年2回の防災訓練などで、消防署の方に色々なアドバイスを受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、昼夜の場合のマニュアルを作成している。運営推進会議の時に、地域の方への協力をお願いしている。	利用者も参加して避難訓練は実施している。マニュアルも作成しているが、特に夜間帯の対応に不安がある。	避難訓練、火災訓練に近隣の方にも参加していただき、より実効性のある訓練・協力体制が整うよう期待する。

富士グループホームほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前での介護や誘導の声かけ、プライバシーの配慮をこころがけ、日々スタッフ同士が気をつけるよう意識づけしている。	日々のケアにおいて一人ひとりを尊重しプライバシーを損ねることのない対応はもとより、外部からの問合せ、電話対応、見学者への対応等にも細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物、行きたい所、やりたい事等、本人の希望を聞くよう心がけているが、自己決定できない人に対しては、他の利用者の意見が反映されてしまう事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者の体調や気分によって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪行為の促し、衣類の自己選択支援をしている。美容室に関しては、当事業所が頼んでいる訪問美容室で済ませる方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフ一同が入居者の嗜好を把握している。 入居者も調理を手伝い、後片付けなど自分が出来る事は、積極的にしてくれている。その中での会話も大切にしている。	利用者は力量・好みに応じて準備や調理・後片付けなど職員と一緒にしている。また、その日の材料を見ながら、一緒に献立を考えることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病、逆流性胃腸炎で、自分で食料の加減が出来ない人への調整や、献立表に具体的な食材を記入する事で、同じ献立にならないようにしたり、水分量については、急須を置いたり、夜間個別にお床において飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、声かけ、見守りし、出来ない部分への介助は行っている。		



富士グループホームほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、個別の排泄パターンを職員が把握し、声かけ、誘導にて失敗をなくすよう心がけている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握しており、状況に応じたさりげない声かけ、誘導によりトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分行えるよう、食事の時にも設定し、オリゴ糖、ヨーグルト、果物は毎日とってもらっている。又、散歩、体操による適度な運動も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェック後、2日に1回のペースで入浴し、入浴できない時には、足浴を行っている。入浴順に関しては、人により希望を聞いているが、不潔状況により職員が決める事が多い。	2日おきの入浴で、希望に合わせて、ゆっくり入浴を楽しんでもらえるよう心がけている。入浴できない日には足浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日を通し、個々のパターンや希望に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースに一人ひとりの服用している薬、効能を書いたものを貼って、職員全員が飲んでいる薬について理解している。薬の変更があった場合も全員に周知し、服薬に関してもチェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意としている事を、他の利用者にも教えてもらったり、その人が出来そうな事をお願いする事で、自信を持ってもらい、手伝ってくれた事に感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1日に1度は外の空気、景色を味わってもらうため、散歩を日課として、コースも入居者に決めてもらっているが、他の外出に関しては、一人ひとりの希望を聞くまでに到っていないが、外出に関しては、皆の意見が反映できるようにしている。	1日に1度は外出する機会を作っている。散歩を日課としており、町並みの移り変わりを話題にし楽しんでいる。外食を楽しんだり個別に買い物に出かけるなど、できるだけ本人の希望に沿うよう努力している。	

富士グループホームほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての入居者とは言えないが、できる人に関しては、時々一緒に買い物に行き、欲しい物を買う事で、楽しみやストレス発散をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をかけて話してもらい、かかってきた電話を代ったりして、家族と会話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雰囲気合った有線の音楽をかけたり、カーテンや照明で明るさの調節を行っている。居室、廊下に入居者と一緒につめた、季節に合った飾りを掲示している。	天窓から自然の明かりが差し込む落ち着いた雰囲気の居間である。また、居心地よく過ごせるように部屋のレイアウトも工夫され、廊下や居間に飾ってある利用者の作品も季節を感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時のテーブル以外に、椅子、ソファ、畳と、各々が座りたい所に座り、気の合った者同士がゆっくと話し出来るようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、入居後も家族の方には馴染みの物が大事だと話しているが、持参品が少なく、必要最低限の物しか持ってきてもらえないのが現状である。配置は本人の使いやすいように設定している。	居室は、畳に布団を敷いたりベッドを利用したり、また、持ち物も利用者・家族の希望や思いにより準備されたものを、より居心地よく過ごせるよう一緒に配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応なので、今まで特に問題はなかったが、歩行不安定な人には常に手すりを持つよう声かけたり、2階であるため、ベランダに出る時には、スタッフが一緒について出る様にしている。		